



クローバー



令和3年度 尾道市立向東小学校 第4学年 学年通信 令和3年9月7日(火) No.9



夏休み、子供達はたくさんの誘惑がある中で、たくさんの宿題をやり遂げました。今日は
その中で“素晴らしい”，“面白い”作品を紹介します。

一行日記 部門

夏は暑い あずきバーが たべたいな

〇〇の足 大きくなって くつ新品

海ではね 高波たくさん おぼれそう

8kgの 大きなすいか とれました

ちらしずし ほっぺおちちゃう おいしさよ

のんびりで ごろごろしてたら 太ってた

ブランコで 手にまめできるまで やったわよ

カナブンが またきたまただ ああまただ

せんぷうき 3台付けて おこられた

バッサリと かみを切って ヘアアレンジ

弟と きゅうりで遊び がおがお～

ついに来た 明日は学校 楽しみだ

どっきりの テレビで死ぬほど 笑ったよ

ひさしぶり すし丸行った すしざんまい

本読んで 原こう用紙と にらめっこ

夏が来た せみが元気に ないている

読書感想文 部門

オオカミ王ロボ

シートン先生が書いたシートン動物記の中のオオカミ王ロボを読みました。シートン先生の本には、いつもたくさん動物が出てきますが、この本には、ぼくの好きなオオカミがたくさん出てきます。だからこの本を選びました。シートン先生は、牧場で牛やヒツジをおそうロボとたくさんさんの知えくらべをしました。けれどロボは、強力な鼻をもち、人間や毒のにおいをかぎ分けることができます。シートン先生は、それでも家畜をおそうロボとそのむれをつかまえようとたくさん考えて、ロボの足あとを見ていろいろ工夫してわなを作りました。ロボも生きるため、むれを守るためにシートン先生が作ったわなにしんちように近づきました。

オオカミ王ロボの題名を見て読んでみると、強くて大きなオオカミが出てきたのがつこよかったです。

シートン先生は動物が好きで観察したり、絵をかいたりしていて、ぼくも動物を観察するのが好きなので同じだと思いました。シートン先生はカランポー平原に住むロボをたおそうとしていま

すが、生き物を殺すことはつらいことです。シートン先生はロボとロボの仲間の一頭を殺したので、すごくさんくで、おそろしいことをしています。オオカミは、家畜をおそって食べるため、害じゅうとして人に追われています。ロボ達なんどもカウボーイたちが育てた家畜を食べたり、おそったりしています。カウボーイたちが困っていることを聞いて、シートン先生はいろいろな知えを使ってわなを作りましたが、なかなかわなにかかりません。なぜなら、ロボにはブランカという仲間がいます。ブランカはロボの最愛のつまです。ブランカは牛の頭をくわえているときにシートン先生のわなにかかりました。ブランカは投げなわをかけて馬をこうごに歩かせ、殺されました。ロボは害じゅうとして悪者あつかいされたけれど、むれやつまのブランカを守ったり、こどもたちを育てたりするために家畜をおそっていた。ロボは、頭が良くて仲間とのきずなや家族への深い愛情があることが分かりました。ぼくは、生き物を殺すことはよくないし、人間の勝手な考えでオオカミを悪者あつかいして殺すのはかわいそうだと

思いました。ぼくの周りにはイノシシが害じゅうとしています。ロボのように殺すのではなく、一緒に生きていくためにどうすればいいかを考えないといけないと思いました。

シートン動物記はまだまだたくさんあるので読みたいと思いました。



読書感想文 部門

ふたりはともだち

私は、アーノルド・ローベルの「ふたりはともだち」という本を読みました。このお話は、小学校二年生の時の国語の教科書に出てきた「お手紙」というお話が入っている本で、その時にとてもいんしように残っていたので、もう一度読み返してみようと思つて選びました。

このお話を初めて読んだときは、かえるくんとがまくんはとても仲良しだなあと思いました。それと、二年生の時はだれかに手紙を書いたことがなかったし、だれかから手紙をもらったことがなかったの、いつか手紙のやりとりをしてみたいなあと思いました。

このお話の中のがまくんは、いつも自分あての手紙を待っています。私は二年生の時まで誰かから手紙をもらったことがなかったの、がまくんが、どんな気持ちで手紙を待っているのか分かりませんでした。

でも、今は、たん生日に友達から手紙をもらったり、友達のたん生日に手紙をあげたりしたので、がま君の気持ちが分かってきました。

私は、友達から手紙をもらったとき、

「大好きだよ。」「また遊ぼうね。」と書いてあつて、とてもうれしくて、幸せな気持ちになりました。だから、がまくんも友達からの手紙がほしかったの、だろうと思います。がまくんの友達のかえるくんもきつと同じ気持ちだったから、がまくんに手紙を書いたのだらうと思いました。

かえる君はがま君への手紙をかたつむりくんに配達をたのみます。かたつむりくんはとても歩くのがおそいので、なかなかがまくんに手紙がとどきません。私はどうして歩くのがおそいかたつむりくんに手紙をたのんだのだらうととてもふしぎに思いました。私だったら、テントウムシにたのむと思います。どうしてかという、と中で鳥に食べられる心配はないし、早く飛べて、早くとどけることができると思うからです。

かえるくんからがまくんへの手紙はとどくまで四日もかかりました。その間、がまくんとかえるくんはずっといっしょに手紙がとどくまで、ポストの前で待っていました。私は、四日間もどんな気持ちで待っていたのかなあと思ひながら、何度も読み返しました。私は、手

紙を待っている四日間、がまくんとかえるくんは手紙がいつ来るのかわくわく、どきどきしながら待っていたのかなあと思いました。四日間も待ったから、いつもよりも四倍楽しかったのかなあと思います。

私は、手紙を書くときには、相手のことを思つて書いています。その手紙を読んで、相手がよろこんでくれたらとてもうれしいです。

私は、相手へ自分の気持ちを伝えることはとても大切なことだと分かりました。私もがまくんとかえるくんのように友達を大切にしたいです。



